

「ユニット学習」について：

1. はじめに

宮の森中学校では、「ユニット学習」と名付けた小集団による学習活動が定着しています。

2・3年生は、教室では「ユニットになって、話し合しましょう」というと、すぐに机を組んで、4人のグループになり活動を開始します。

前々回の研究テーマで取り組んだものですが、宮中の学習形態のひとつとして、定着していますし、発言が少ないクラスも積極的に話し合うなど学習効果もでていきますので、継続し、新しく来られた先生方にも引き継いでいこうと考えます。

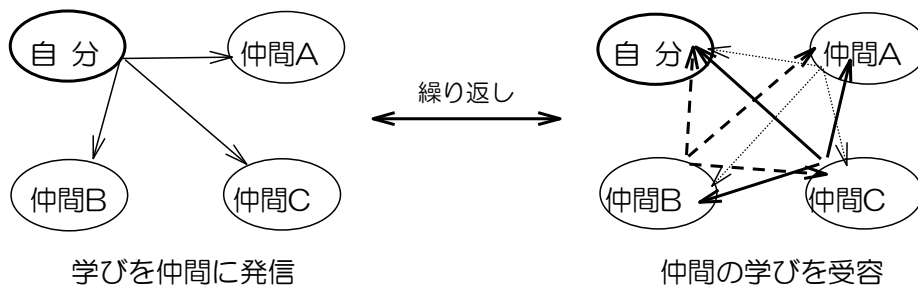
さらに、本校の研究「言語活動の充実」においては、今まで以上に「ユニット学習」を効果的に活用することが重要になると思われます。

2. ユニット学習のねらい

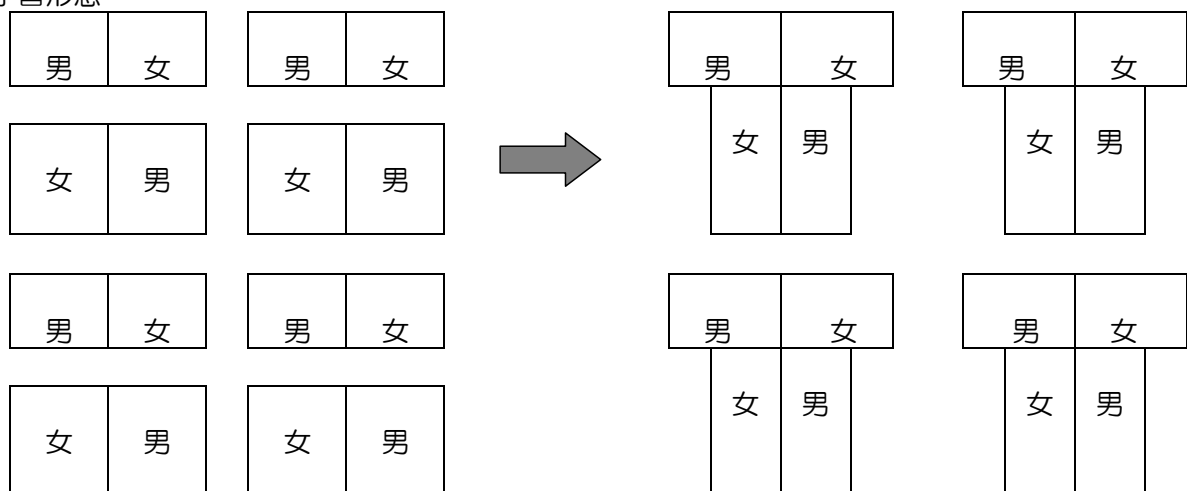
- 小集団の「かかわり合い」の活動を授業展開に組み込むことで、課題を自分事としてとらえ、自分の考えをもたせる。
- 他の意見を取り入れることで自分の考えを深め、思考力や判断力を育てる。
- 他の意見を聞こうとする姿勢をもつことで、他を思いやる心を育て、よりよい人間関係を築き、積極的にかかわる意欲や判断力を育てる。

※「かかわり合う」とは・・・

自分の学び(考え・思い)を仲間に伝えること、仲間の学びを受けとめること、仲間と一緒に学び合うこととおさえる。仲間とのかかわり合いを通して、小集団における自己の存在価値に気づき、また、他者の考えの中に見られる自己との相違点を受容したりする中で、他者を信頼する態度や物事を幅広く見る力を育むことをねらう。



3. 学習形態



*男女が市松模様型で交互に着席する。

*奇数列の前列が机を横向きにし、4人グループの「ユニット」になる。

→ 男女市松模様型で適度の緊張が生まれ、男女の話し合いが活発になる。

4. 学習内容

授業の具体的な例としては…

A. 他者と考えをすり合わせながら自己認識を高める

課題に対する自分の考えや感想をグループで交流して
違う視点を得て、自分の考えや感想を深める

B. 現実の「もの」や「こと」とつながった探求する学び

与えられたものや資料から疑問を解いていく
個人の予想をグループで交流し、解決していく

C. 他者と交わりながら探求する学び

コミュニケーションを通して、未知の課題を探求しながら
学習を進める

5. 留意点～学習のルールづくり

1. 学習の目的の明確化

何のために、どのような手段で（何をを使って）、学習するか、の説明を明確に行う。
毎時間、教科ごとのねらいに沿って、学習は進められるが、かかわり合い学習のねらいが、全員にとって意欲を高めるものであること、かかわり合うことで成果を高められるものであることが求められる。そして、何よりその目的を全員に徹底することが大事である。
また、「5分で行う」などの時間制限も必要になる。

2. 学習時のルール（約束事）の提示と徹底

自分の考えをきちんと話すと共に、人の意見をしっかり聞いて、自分の考えを深めること。
「かかわり合い」が、人を育て、生かすものであることを繰り返し、徹底すること。
などのルールを提示し、何度も繰り返してそのルールを徹底させたい。

3. 個別指導

学習に取り組まなかったり、かかわり合いを拒否するような行動があったとき、生徒の様子を見て、個別に指導にあたる。学習の目的を再度話す、課題の視点を変えるようにアドバイスを与える、教師も話し合いに参加しながら、質問・繰り返し・明確化の語りかけを行い、ユニット内での発言や思考を促す、などの方法が考えられる。
また、生徒によっては参加できる部分だけの参加を認めたり、他の生徒に誘導させるなども対策として考えられる。

4. 「ふりかえり」での内省

「個」→「ユニット」→「全体」の流れの後に、出来る限り「個」に返す内省の時間を取る。学習の定着を図ると共に、他との「かかわり」の仕方について、見直しをかける。

学習の目的は、個人の学習理解となるが、「かかわり合い」をふりかえることで、他を理解し尊重する気持ちが育つ。また、自分の考えを受け入れてもらったことで、集団での安心感（自己受容）が生まれる。

5. 評価の観点

①生徒は、課題を理解し、自分の考えをもつことができたか。

②生徒は「聴く」ことができていたか。

「聞く」ではなく、「聴く」こと。かかわり合いの学習の中で、相手の意見や考えを尊重し、聴く姿勢で聴いていたか。

体を向け、視線を合わせ、時には確認や問い直しなどのコミュニケーションがとれていたか。

③生徒は「自己開示」のコミュニケーションができていたか。

かかわり合いの相手に対して、自分の意見や考えをわかってもらおうと、働きかけていたか。
雰囲気づくりのルールの徹底とともに、積極的に他に働きかけることのできる課題であることが求められる。

協同的な学びとは？

- ①生徒自らが考えることで、課題を自分の中に取り込む
自分のための学習となる
- ②意見の統一が目的ではなく、交流が目的
班として話し合うが、最後は個人として発表する
- ③意見は統一する必要がない
下位の生徒は、堂々とわからないことを聞ける
- ④上位の生徒は、説明することで力をつける
ただし、教え合うことが目的ではない 目的は「学び合う」こと
学び合う中で、他を思いやり尊重する気持ちが自然と身に付く

* 課題の設定が重要

易しすぎると、上位の生徒は退屈になる。少し難しめの課題を与えて、「ジャンプする学び」を行う。人が物事を理解する時は、時系列に順序立ててするものではない。わからない事象の海を泳ぐ中で、突然理解するものである。

* グループ学習との違い

班で話し合っただけを導き出す場合、班で話し合うといっても誰か一人の意見となる場合がある。「協同的な学び」は、個人一人一人の意見が先にあり、それを確かめ合い深める場としてある。よって、結論は班でひとつに絞る必要はない。話し合い後の発表は、班としてではなく、個人として行われる。

- 「勉強」と「学び」は別ものである。「勉強」というのはモノとか他者とかが自分と出会わず、ただひたすら教科書と先生が提供する知識を記憶するというものである。「学び」というのは、仲間と一緒に進めるもので、他者とのコミュニケーションが欠かせない。よくわかった子どもが使っている言葉、概念をわからない子どもがとりあえず使ってみる。使っていくうちにその知識が身についていく。…中略… 仲間と違いを大切にしながら、協同で学び合っていく授業づくり…自分の言葉できちんといえるような知識にしたり、それを仲間とのあいだで吟味したり、意味のつながりを発見したりというような、表現し、共有し、吟味しあう「学び」をすることである。
(佐藤 学)
- 子供主体の授業より「1時間に2ページは終えないといけない」「知識・技能がなければ受験で困る」を理由に教師が一方的に語る授業（一斉授業）が多い。しかも、画一的な答えを予想し期待する一握りのいい意見だけを取り上げ、それらを板書しながら授業を展開している。教師主導の一方的な一斉授業の形態は、わからないことがあっても「わからない」と言えない状況をつくり、学ぶ意欲を低下させ、思考を停止させ、知識の暗記に走らせる。主体的な学びとは子供に対する受動的能動性を高めることであるが、それができていない。
(佐藤 雅彰)

*参考文献：

- 「公立中学校の挑戦～授業を変える学校が変わる」 ぎょうせい 佐藤雅彰 佐藤学 著
- 「学校の挑戦～学びの共同体を創る」 小学館 佐藤 学 著
- 「学びから逃走する子どもたち」 岩波ブックレット 佐藤 学 著
- 「競争やめたら学力世界一～フィンランド教育の成功」 朝日新聞社 福田 誠治 著

ユニット（話し合い）の 心得とルール

札幌市立宮の森中学校

皆さんに豊かな心と確かな学力を育ててもらおうと
願い、「かかわり合い」の学習を行っています。

- ★ 課題を理解し、自分の考えを持ちましょう。
課題が理解できない時は、遠慮なく先生に聞いてください。
「間違っているかも」「どうせ自分なんか」ではなく、自分で
しっかり考えることが大事です。
- ★ 自分の考えに自信をもって、ユニット内で発表してください。
課題についてよくわからない場合は、納得がいくまでユニット内
で聞いてください。聞かれた人は、丁寧に教えてあげましょう。
- ★ ユニットの話し合いは、全員が順番に発表しましょう。うまく考
えがまとまらなかった時は、「なぜ、まとまらなかったか」
「どこがわからなかったのか」について話しましょう。
- ★ 話し合うときは、自分の意見を言うこと以上に「人の話を聴くこ
と」が大事です。相手の顔を見て、相手を尊重して、耳だけでは
なく、心で聴いてください。
- ★ 全体での発表をしっかり聞いて、自分の意見を修正したり、付け
加えたりしましょう。「聴く」ことは、学ぶことです。
- ★ 学習には「ふりかえり」が大事です。自分で考えたこと、他から
学んだことを軸に、学習内容や人とどうかかわったかを、ふりか
えりましょう。

*全教室の黒板の上に掲示してあります。

*学級に掲示されていなかったり、破損していた場合連絡をください。作り直します。